



女子美術大学
JOSHIBI UNIVERSITY OF ART AND DESIGN

プレスリリース

2025 年 3 月 3 日

報道関係者各位

本学在学生のデザインが芙蓉総合リース自動運転 EV バスの
オリジナルラッピングコンペにて採用されました

学校法人女子美術大学(東京都杉並区、理事長 福下 雄二、以下「女子美術大学」)の学生が、芙蓉総合リース株式会社(東京都千代田区、代表取締役社長 織田 寛明、以下「芙蓉リース」)が開催する自動運転 EV バスのオリジナルラッピングコンペに参加しました。

学生は、①サステナビリティ(EV 導入による持続可能な社会への貢献／誰もが自由に移動できる持続可能なまちづくりへの貢献をアピールできるデザイン)、②次世代モビリティ(自動運転バスがまちを走り、未来を感じてもらえるようなデザイン)の 2 つの デザインコンセプトを踏まえ自由にアイデアを提案しました。

コンペの結果、共創デザイン学科 1 年の坂本楓さん・嶋崎帆南さんの作品が採用されました。

そして、2025 年 3 月 10 日に、自動運転 EV バスの試乗会として学生のデザインが施された車両が女子美術大学の相模原キャンパスに登場します。

当日は女子美術大学卒業・修了制作展の会期中でもありますので、学内に様々な学生の作品が展示されます。試乗会と合わせて、ぜひご覧ください。

自動運転 EV バス試乗会の詳細は 2 ページ目以降のチラシをご確認ください。

本件に関するお問い合わせ先
女子美術大学 総務企画部 広報グループ
prs@venus.joshibi.jp

自動運転EVバス 試乗会開催のご案内

3月10日(月)
10:00～16:00
(13:00～15:00運休)
女子美術大学
相模原キャンパス

※本試乗会での走行は手動走行となります。

◆ 自動運転における国の動向

経済産業省・国土交通省では
全国での自動運転事業の目標件数を設定しており
今後も各地での自動運転事業の増加が見込まれます

2025年度目途
全国50か所以上



2027年度目途
全国100か所以上

自動運転導入により様々な形で社会課題にアプローチ

労働力不足
改善
交通インフラ
維持



地域の
商業活性化
新たな
移動創出

◆ 車両概要

(参照・出典：株式会社マクニカ HP)

フランス Navya社製 **ARMA・EVO**



レベル3* レベル4*
自動運転システム
ハンドル・アクセル・ブレーキなし
(セーフティ機能あり)



乗車定員 15人
座席 11人
立席 4人



速度 25km/h
日本国内推奨速度
20km/h未満



EV (電気自動車)
最大走行時間 9時間
走行距離 100km

*ODD (運行設計領域) に基づく走行環境条件を満たす場合に限りです

◆ 芙蓉リースグループの取り組み

実証実験への車両提供により上記社会課題の解決に貢献



◆ 試乗のご案内

乗車場所：女子美術大学 相模原キャンパス 1号館前
乗車人数：1便あたり6人

10時台	10:00	10:10	10:20	10:30	10:40	10:50
11時台	11:00	11:10	11:20	11:30	11:40	11:50
12時台	12:00	12:10	12:20	12:30	12:40	12:50
13時台	運休					
14時台	運休					
15時台	15:00	15:10	15:20	15:30	15:40	15:50

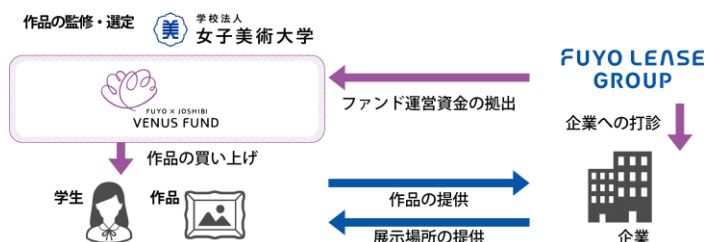
◆ 芙蓉・女子美Venusファンド

2021年に女子美術大学と共同で、芸術家を目指す学生を支援する「芙蓉・女子美Venusファンド」を設立し、作品を多くの人に知ってもらう「場の提供」に取り組んでいます。

これまで個人の保管や学内展示に留まっていた作品を広く世に発信することで、学生の皆様が将来の夢に近づくことを支援していきます。

ファンドの推進を通じて芸術家を目指す学生を積極的に支援するとともに、新たなアートを社会へ還元することにより、日本の芸術文化の振興に寄与、貢献することを目指します。

▼概要図



▼株式会社シードのオフィスビル（エレベーターホール）に日本画専攻/石井さんの作品を展示いたしました。



◆ 自動運転EVバス 芙蓉リースオリジナルラッピングコンペ開催

芸術家を目指す学生の“自由で柔軟な発想力”を取り入れたデザインを募集いたしました。

学生の皆さまには2つのデザインコンセプトを踏まえ自由にアイデアを出していただきました。

サステナビリティ

EV導入による持続可能な社会への貢献／
誰もが自由に移動できる持続可能な
まちづくりへの貢献をアピールできるデザイン

次世代モビリティ

自動運転EVバスがまちを走り、
未来を感じてもらえるようなデザイン



採用デザイン コンセプト紹介

共創デザイン学科/坂本さん

次世代モビリティである自動運転EVバスEVOに、ビルと木をメインで配置して、人間も自然も持続して共存できるサステナビリティを表現しました。その街並みをこの自動運転EVバスが走ることを想像しながらデザインしています。

サステナブル＝地球のイメージから青と緑の爽やかな色合いでまとめることで、これからの明るい未来を感じさせるようにしました。

新しい時代の幕開けをイメージして、背景を早朝の空のような色合いを表現しています。

サステナビリティ＝持続可能性なので、「循環」をイメージして白い円弧を背景に配置しています。

共創デザイン学科/嶋崎さん

サスティナブル→自然、持続可能。次世代モビリティ→近未来というキーワードを出しました。さらに、ずっと続く先を見ている→進化と連想し、キーワードを出しました。

キーワードの進化という言葉に沿うデザインにすべく、カメレオンという具象的なモチーフを挙げています。カメレオンは周りの色に変化したりと、常に変わり続ける生き物であり、視力が良いためこれからもずっと続く先をみれる生き物と感じ制作しました。

反対にカメレオンの周りには自然を抽象的に表しているデザインです。カメレオン自身が吸収した色を自然に分け与えるサスティナブルなストーリーを表現しています。乗る人が誰でもワクワク感を感じられる色味としてハッキリとしたカラーを使用しています。